

心に残る文化財子ども塾 安来市立井尻小学校

1. 活動の概要

6月7日（火）、安来市井尻小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに安来市教育委員会文化課の職員から、井尻小学校からほど近い経塚鼻遺跡から見つかった土器や勾玉を見学しました。はじめて土器を見る児童が多く、おそるおそる土器に触れ、その質感を感じていました。続いて、実際の土器づくりの参考に島根県内の遺跡から出土した縄文土器や弥生土器を見学しました。土器の形や文様の特徴を熱心に観察していました。

次に、土器の作り方の説明を受けて、土器作りに挑戦しました。事前に作ろうと考えた土器のデザインを下書きしていましたが、粘土ひもの積み上げや土器の形に整えるのに苦労していました。予定の終了時間が迫る中、ぎりぎりまで貝殻や縄で文様をつけたり、入念に形づくりをするなどし、一生懸命取り組んでいました。

授業を終えた児童たちは、ふるさとの歴史や身近にある遺跡への興味が高まった様子でした。

2. 活動の様子



経塚鼻遺跡の土器を見学しています



粘土紐を積み上げて形をつくります



土器の形ができてきました



壺の形に挑戦！



取っ手をつけてみました



土器の外側に模様を描いて出来上がり！

3. 子ども塾を終えて

1) 子ども達から…

- ・粘土を細くして継ぎ目がわからないようにするのが大変だったけど、もようをつけるのが楽しかった。
- ・次に土器を作る機会があったら焼いてみたい。
- ・設計図と違うところがあり難しかった。
- ・ひもを作ってそれをつみ重ねていくのが地味だったけど一番心に残りました。
- ・設計図とどんどん違う形になっていきましたが自分としてはいい形ができた。

2) 担任の先生から…

教科書などでは伝わらない本物の良さを体感でき、日本の歴史やふるさとに興味を持つことができました。土器ひとつ作ることが大変だと伝わったと思います。また、身近な地域で見つけた物を持ってこられ、見せていただいたことが良かったと思いました。

3) 埋文センターから

安来市は遺跡の多いところですが、自分たちの身近なところに遺跡があることを知り、歴史への興味や関心が高まった様子が伝わってきました。

土器づくり体験では、土器の厚みを一定にしつつ粘土紐を積み上げていくという作業が難しかったようで、下書きと違う形になってしまうことがありましたが、最後まで集中して取り組んでいました。本物の土器を間近に見て、自分たちの作った土器と比較するなかで、当時の人々の土器づくりの技術の高さを実感したのではないのでしょうか。かなりむずかしい古代体験でしたが、土器づくりを通して古代の人の工夫や苦勞に思いをはせている様子でした。

これからも自分達の住む地域の歴史に関心を持ち続けてほしいと思います。